

平成31年度 当初予算（案）

# 主な事業の説明書

市立大曲病院



# 事業説明書

市立大曲病院事業会計

(施策の大綱) 保健・医療の充実

(施策) 地域医療体制の充実

(基本事業) 医療機能の強化

継続

課所名：市立大曲病院 管理課

## 『事業名』 市立大曲病院事業

収益的収支	【31年度】	<b>882,651</b>	千円	【30年度】	<b>876,312</b>	千円	【増減額】	<b>6,339</b>	千円
資本的収支	【31年度】	<b>109,759</b>	千円	【30年度】	<b>100,784</b>	千円	【増減額】	<b>8,975</b>	千円

※31年度事業費の財源内訳（上段：収益的収支、下段：資本的収支）

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			<b>656,910</b>	<b>225,741</b>
			<b>58,500</b>	<b>51,259</b>

「その他」：上段、医業収益等。下段、過年度損益勘定留保資金。

### 1. Plan（計画：事業の目的及び目標）

地域住民のこころの健康保持のため、精神科医療を提供する。

診療科目：精神科、神経科、（内科）

病床数：120床（一般精神病棟70床、認知症病棟50床）

●目標：入院	38,430人（1日当たり105人）	一般精神病棟	23,790人（1日当たり65人）
		認知症病棟	14,640人（1日当たり40人）
外来	14,772人（1日当たり60人）	外来診療	14,160人（1日当たり59人、240日）
		訪問看護	612人（1月平均51人）

### 2. Do（実行：これまでの実績と成果）

- ・ 開設以来、大仙市及びその周辺地域の住民に精神医療を提供する公立病院として、住民生活を支えている。
- ・ 平成22年度から常勤医4名体制となり、平成26年4月から外来薬剤を院外処方にするなど、機能の充実と合理化を図っている。
- ・ 平成30年度から市の認知症初期集中支援推進事業に参画し、認知症の予防や家族への支援を行っている。  
平成31年1月末までの事業実施状況 5件（2件支援終了、3件継続支援中）

### 3. Check（評価：問題と課題）

- ・ 医療施策が「入院医療中心から地域生活中心へ」「治す医療から治し支援する医療へ」と転換している。また、地域の高齢化に伴い認知症への医療需要が増加すると同時に、人口減少に伴い患者数が減少している。
- ・ 制度の改正に適合した医療サービスの提供と病棟の有効活用が課題となっている。
- ・ 平成8年12月の開設から20年以上経過しており、維持補修費が増加している。施設設備の更新計画を策定し年次計画で改修するなど延命化を図りながら、設備の見直しを行い、病棟を有効活用する必要がある。

### 4. Act（改善：今後の方向性と31年度事業の概要）

- ・ 地域に必要な病院であり続けるために、地域のニーズと時代に沿った医療の提供に努める。
- ・ 入院医療では、総合病院と介護施設の中間に位置する専門病院として、関係機関と連絡を密にし患者を受け入れる。
- ・ 外来医療では、訪問看護・指導や訪問診療など複合的な体制でさらなるサービスの向上に努める。
- ・ 各福祉施設や医療機関、地域包括支援センターなど認知症の予防や支援を業務とする機関との連携を深め、市の認知症初期集中支援推進事業の一端を担い、専門病院として積極的な役割を果たしていく。

【収益的収支予算】	病院事業収益	882,651千円		
	医業収益	634,670千円	（うち入院 555,313千円、外来 75,556千円）	
	医業外収益	247,981千円	（うち一般会計負担金 225,741千円、 認知症初期集中支援推進事業分 358千円）	

病院事業費用	882,651千円		
医業費用	854,525千円	（うち給与費 581,060千円）	
医業外費用	25,426千円	（うち企業債支払利息 25,037千円）	
特別損失	1,200千円		
予備費	1,500千円		

【資本的収支予算】	資本的収入	51,259千円	（一般会計出資金 51,259千円）
	資本的支出	109,759千円	（うち企業債元金償還金 102,517千円）
		（収入が支出に不足する額58,500千円は、過年度損益勘定留保資金等で補てんする。）	